

マレーシア、オランダのホストタウン、三芳町。誰もが安心して暮らすことのできる共生社会に向けて、住民の皆さんに送られた両国の駐日大使と、マレーシアパラリンピック委員会会長からのメッセージを紹介します。

新春
TOPICS ②

ホストタウン
2021

共に歩み、生きていく—— ホストタウンへのメッセージ。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、マレーシアの重要なイベント、ナショナル・デイ（独立記念日）とマレーシア・デイ（建国記念日）も公に行うことができませんでした。

そうした中、マレーシア料理のグルメフェアやハラル料理講座、パラバドミントン体験会など、マレーシアやパラスポーツの理解を深めるイベントを実施してくれたことに心から感謝しています。そして、マレーシアからの留学生（タン・ウェンシーさん）を受け入れてくれたことを大変嬉しく思います。私は、彼女がマレーシアと三芳町の友好の懸け橋になってほしいと願っています。

どんな時でも、私たちは常に三芳町の友人であることを覚えておいてください。共生社会の実現に向けて、これからも共に歩んでいきましょう。■

「コロナ禍でのマレーシアイベントに感謝」



学校で子どもと交流しながらマレーシアの魅力伝えるタン・ウェンシーさん。

 マレーシアパラリンピック委員会会長
ダト・シリ・メガット・D・シャリマン



今年のパラリンピックで、マレーシアパラリンピックチームを三芳町が拠点として受け入れてくれたことに感謝しています。マレーシアと強い絆で結ばれた三芳町でキャンプができることを、アスリートも心強く思っていることでしょう。

私の長男は障がいがあります。なので、私は人一倍、障がい者スポーツに情熱を持っています。マレーシアのパラアスリートが力を発揮し、パラスポーツがより発展していくため、最善を尽くすのが私の使命です。これからさらに三芳町と交流を深め、最高の状態でパラリンピックが迎えらることを願っています。

オランダは小さな国ですが、農作物の輸出量が世界2位。また、農業だけでなく、チューリップやユリの花も有名で、大使公邸でユリの販売促進イベントを行ったり、毎年4～5月のチューリップが見頃の時には、大使公邸の庭園を一般公開しています。

大使館の重要政策「共生社会の実現」

共生社会の実現は、オランダ王国大使館の重要政策の一つであり、具体的には障がい者スポーツの推進、日本のLGBT（*）の状況改善や前進などが挙げられます。

特にLGBTに関しては、LGBTを推進する団体との連携が大切です。日本は法律が整備されていない中でも、多様なかたちを認め、独自でパートナーシップ制度を導入している自治体もあります。これにより同性カップルが生活しやすくなるなど、社会的な効果は大きいと思います。

* LGBT：性的マイノリティを表す総称の一つで、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの各単語の頭文字を組み合わせた表現。



（写真上）オランダ王国大使館を表敬訪問。共生社会の推進やオリンピック・パラリンピックに向けて意見を交換。
（写真左）淑徳大学で行われたトレーニング前のセレモニーで挨拶するオランダ選手。

オランダ女子柔道チームは、何度も三芳町に滞在し、淑徳大学でトレーニングキャンプをしていますが、三芳町を「過ごしやすく心地よい場所」だと思っているはず。そう感じる理由は、オランダと三芳町が共生社会の推進など、同じ価値観を共有しているからです。

また、強調したいのは「オリンピックに比べて、パラリンピックは忘れがちである」ということ。三芳町がパラリンピックのホストタウンになったことに敬意を表します。

延期となったオリンピック・パラリンピックの実現に向けて、世界中で新型コロナウイルス対策が進められています。オランダ女子柔道チームがまた三芳町を訪れ、町の皆さんと交流できる日が来ることを願っています。■

「オランダと三芳町は同じ価値観を共有している」



駐日オランダ王国大使
ペーター ファン・デル・フリート



駐日マレーシア大使
ダト・ケネディ・ジャワン